

東日本大震災被災地支援事業

南相馬・子どもリフレッシュ大作戦 in福井

報告書

特定非営利活動法人 パパジャングル

パパジャングル

「南相馬夏休みリフレッシュ大作戦」ご報告

多くの皆さまのあたたかいところ、あついところ、つよい想いに支えられて、南相馬の子ども達に笑顔が届ける事ができました。皆さま、本当にありがとうございました。簡単ではございますが、以下にご報告させていただきます。書面にてのご報告、失礼をお許し下さい。

<経緯>

福島県教育委員会のS氏から発せられたSOSを受信したことから、この取り組みが立ち上がりました。

「南相馬の子ども達の現状・SOS」と題した便りに、東日本大震災と原発災害により、甚大な被害はもとより苦い思いや不安との戦いの現状下、「子ども達に笑顔を！」との訴えが切々と語られていました。放射能により外遊びどころか外出さえも出来ず、夏なのに長袖長ズボン、学校は窓を締め切り室温 40 度、避難生活の上、食事も給食もままならない状況です。我慢を強いられている子ども達が、それを辛いと、嫌だと、何とかして！と言葉にできずにいる現状が良いはずがありません。

そんな子ども達に思いを馳せ、子をもつ保護者のいたたまれない気持ちを考えたとき、何ができるか考えるより先に、行動を起こさずにはられませんでした。「福井へおいでよ！」とパパジャングル理事長・荒巻仁が声を上げたことからこの事業が動き始めました。

当初は、先方から「申し出はありがたいが、保護者が子どもを手元から離すのは不安が大きいから無理ではないか」との意見もありました。しかし、荒巻の熱い思いが伝わり、現地の人達に動きが出てきました。その思いは、もともとの情報源である東京のNPOファザーリングジャパンの田中氏にも伝わり、田中氏が熱く全国へ呼びかけ、全国各地で、夏休みに南相馬の子ども達を招待する企画が続々と立ち上がってきました。その後それをまとめる団体として南相馬市のPTAが窓口になっていただき、「南相馬こどものつばさ」プロジェクトが立ち上がって行きました。

保護者の反応は非常に前向きだった様です。沖縄から北海道までの地域から子ども達の受け入れ希望が集まり、今度は福井に来たいという子ども達が本当に居るのか不安にもなりましたが、予定通り 20 名の参加者が集まりました（キャンセルもあり当日参加者は 15 名）。

参加する子ども達の固有名詞が集まると、俄然、やる気もパワーも生れてきます。しかしながら、NPO団体1つの力では到底この事業は成し遂げられません。一番の問題は資金です。「何とかなるだろう」、いや、南相馬の子ども達のために「何とかしてやる！」そんな思いで突き進んできました。幸いな事に、多くの皆様のあつく思いのこもった支援を頂く事ができ、この事業を進めていく事ができました（支援者、支援団体、企業等は別紙参照）。

<移動日> 8月3日(水) 南相馬へ向けて出発

朝8:00、福井マツダでレンタルした29人乗りバスで、南相馬へ向けて出発しました。理事長の荒巻と、1週間、南相馬の子ども達と寝食を共にする常駐スタッフ兼運転手2名、計3名での長旅です。子ども達を乗せた場合を想定してゆっくり走り、休憩も取りながら、道中10時間位を予定していました。

二本松IC経由で南相馬市に入り、明日4日朝の集合場所JAそうま隣接の鹿島体育館へ辿り着いたのが17:00頃。二本松ICを降りたあとの道中では、学校のグラウンドに表面を削り取ってビニールシートで土を覆った光景があったり、放射能が最も高いと言われている飯館村を通ったり、集合場所の鹿島体育館は、窓ガラスが全て割れているままの現状でした。被災の現状を目の当たりにしてきました。

集合場所を確認し、予約しておいた宿へ向かいます。その道中、国道を走っていると道端の田んぼの中に無数の船が横たわっています。後で聞いたのですがその船の中に、今回参加してくれた子どものおじいちゃんの船もあるそうです。「船、修理して、また漁を続けるとおじいちゃん言ってたよ!」と、明るく語ってくれました。

宿から3キロほど南に下りると、放射能による立ち入り禁止地区だそうです。それでも宿泊客は一杯でした。復旧、復興のための業者や、ボランティアの人達だそうです。10日ほど前に宿を予約したのですが、どこも一杯でなかなか見つかりません。20件ほど連絡をして、やっと、何とか入れてもらったという現状でした。

周りの飲食店などはほとんどが休業で、コンビニエンスストアも夜10:00には閉まってしまう。

再度目の当たりにした震災の影響を心に留め、明日からの子ども達とのひと時に思いを馳せずにはられない一日でした。

<1日目> 8月4日(木) 福井へ向けて出発



JAそうま・鹿島体育館でAM6:45、集合出発です。6:00に宿を出て、受け入れ態勢の準備をして子ども達を待ちます。小雨がぱらついてきました。「放射能、大丈夫かな?」
こんな心配と不安がつい、こころをよぎります。
屋根のある場所へ移動した方が良いかな?
そこへ、子ども達が保護者ととともに続々と集まって来ます。

男の子4名（全5年生）、女の子11名（全6年生）、総勢15名の子ども達です。

現地のスタッフによる出発式を終えて、7:15頃、福井県春江町に向けて出発しました。二本松ICに乗るまでの間、数日前の「新潟、福島豪雨」の影響で通行止め区間にぶつかり山道への迂回路を取ったため、1人車酔いとなってしまいました。休憩しながらの道中となりました。

子ども達は友達同士の子もいますが、ほとんどが初めて顔を合わす子がほとんどのようです。ただ、荒巻（通称：あらじん）とは、事前のオリエンテーションで顔を合わせている事もあり、再会を楽しみにしていた様子です。それよりも、あらじんの方が嬉しそうでした。あらじんとの話も弾んでいましたが、長旅となります。車中でDVDも鑑賞しながら、途中のPAで昼食を取り、近くは徳光PAでゆっくりくつろいで、春江町を目指しました。



16:40、丸岡ICを降り、夕食先の春江町にある小川屋さんへ向かいました。小川屋さんは被災者の方が来店の場合は割引制度を設けてくれています。そこへスタッフ3名合わせて総勢18名が入りました。貸切状態となってしまいましたが、快く受け入れてくれました。ありがとうございました。福井名物ソースカツ丼を堪能しました。

食事を済ませ、期間中の拠点とする春江町江留中、子どもジャングルへと向かいました。そこには期間中の食事、洗濯等の身の回りの世話を引き受けてくれた「あらじんとゆかいな仲間たち」の面々と、子どもジャングルに通っている子どもや保護者の方々が出迎えのために待っていてくれました。TV局FBCもスタンプバイしてくれていました。

子ども達は長旅の疲れも見せず、元気な足取りで春江町へと足を下ろしました。

子どもジャングルの施設内へ入り荷物の整理、だるまや商事さん提供の布団の整理等を行いました。期間中、ほとんどここで寝泊りをします。全員雑魚寝。女の子が多いので嫌がるかと心配もしましたが、かえって楽しかったようです。毎晩、遅くまでいろんなことをしでかしていく事となりますが、初日のこの時間までは、まだ、おとなしかった方だと記憶しています。

身支度を整えて風呂へ向かいました。いちい荘さんが遅い時間、時間外なのに提供して頂きました。ありがとうございました。歩いて行ける所なのでとても助かりました。期間中二度もお世話になりました。広いお風呂を貸切で使わせて頂き、子ども達もゆったりと過ごせたようです。

子どもジャングルへ戻り、あとは寝るだけ。疲れているから早く寝るかと思いきや、早速、枕投げが始まりました。一方ではトランプ、ウノとカードゲームが始まり、いつ寝るのか...

明日からも、晴れが続く猛暑の予報。心ゆくまで楽しんで欲しいと願っています。

<2日目> 8月5日(金) 松島水族館・磯観察・歓迎パーティ

今日は、越前松島水族館鑑賞と海へ入っての磯観察、夜は歓迎パーティとぎっしり予定の詰まった一日です。起床は6：30予定。子ども達は...、5：00頃から騒ぎ始めています。ほとんど寝ていない子も居るようです。

朝食は7：00、「あらじんとゆかいな仲間たち」の面々が、腕によりをかけて早朝から準備してくれました。期間中、朝、晩はほとんど毎日、準備をしてくださいました。ありがとうございました。更には子ども達の洗濯まで引き受けて下さいました。頭が下がります。食材は県民生協さんやJA春江さんが提供して下さいました。県民生協さんは他にも経済的支援と飲料・人的支援、活動先へのお弁当の配達、各店舗で募金活動までして頂きました。絶大なる支援をありがとうございました。



その朝食、家庭的な料理、そして栄養価も考えての献立、ご苦労があったと思います。この日、頂いた朝食を子ども達が一口、口にすると「うまい！」との声を上げていました。子ども達には何よりのご馳走だったと思います。

朝食のおかわりを何度もしたところで、バスに乗込んで松島水族館へ出発です。

春江町の子ども達との交流も今回の事業のテーマの一つとしていました。南相馬の子ども達はもとより、春江の子ども達にとっても貴重な体験になると信じています。子どもジャングルに通う子ども達の中の希望者も一緒に数班のグループを作って開門と同時に水族館内へ入りました。人数も多く、海にも入るといって人手が必要だったのですが、福井大学医学部のボランティアサークル「FEAL」の学生さんたちがお手伝いに来てくれました。この学生さんたちは普段からパパジャングルの運営する児童クラブのボランティアもしてくれています。

子ども達も一緒に遊べて楽しかったようです。ありがとうございました。イルカショーを見たり、館内全てを鑑賞したところで海へ入っての磯観察。水着へ着替える前、小さな声でぼそぼそと会話する声が聞こえました。

「放射能は？大丈夫なの？」

「ここ南相馬とちがうよ、大丈夫じゃない!？」

「けどさあ〜」

「何も言われてないから大丈夫だって！」

「そうか」

聞こえてしまった会話でした。今までこんな心情は少しも見せなかったのですが、そんな思いを抱えている事を知ってしまいました。気兼ねなく、楽しんで欲しいと思われました。

みんな 90 分間の時間一杯、ずっと海に顔をつけたまま。春江の子ども達の中には「寒い」と言って 2~3 人時間前に上がった子もいたのですが、南相馬の子ども達は「時間です！」の声がかかっても尚、潜り続けていました。



名残惜しく海から上がって昼食です。県内での出先での昼食は全て県民生協さんが提供、配達をして頂きました。ありがとうございました。



午後からはお土産購入の時間を取り 14:30 に水族館を後にしました。その足で三国観光ホテルさんが提供して頂いた温泉に向かいました。昼の風呂！時間が早いこともあり、ほぼ貸切状態。「なぜ昼なの？」と素朴な疑問を発しながら大暴れした温泉浴でした。三国観光ホテルさん、ありがとうございました。

子どもジャングルに戻り、荷物の整理等を済ませると、敷地内で男の子はサッカーが始まりました。「宿題持ってきた子いる？ やってもいいよ！」の声は無視！広い敷地内で遊び回った後、歓迎パーティのために中公民館へバスで移動。18:30からパーティが始まりました。

あらじんとゆかいな仲間たちが準備してくれたパーティ食やボランティアさんの腹話術やビンゴゲームなど催しも準備し盛り上がりました。子どもジャングルの2年生と3年生の子と一緒に「マルモの歌」を踊りつきで披露してくれました。拍手喝采でした。催しの中で、南相馬の子ども達への質問タイムがありました。子どもジャングルの子ども達が質問したのですが、その中で3年生の男の子が「地震の被害はどんなことがありましたか？」と質問しました。



一瞬、ドキっとしたのですが、躊躇せず、南相馬の子ども達は応えてくれていました。中には「お姉ちゃんのガラスのハートが壊れました」と笑いをとっていた子もいました。子ども同士の関係、ストレートな付き合いを望んでしまいましたが、反面、その心情を察する事しか出来ない無力さを感じずには居られませんでした。

歓迎パーティは和やかに行うことが出来ました。MAREさんのお手伝いや差し入れもありました。子どもジャンルの保護者、FEALの皆さん、たくさんの方にご協力を頂きました。ありがとうございました。

子どもジャンルに戻り直ぐに就寝、と思いきや、枕投げに始まりトランプ、ウノ、怖い話と今日もまた、いつになったら寝られるのか…。子ども達は元気一杯です。

<3日目> 8月6日(土) 流しそうめん・ぶどう狩り

子どもジャンルで子ども同士の交流をメインに、ゆっくりと過ごす日と見込んでいました。一応は…。ゆっくり寝ててもいい日なのですが、やはり起きるのは早い。睡眠時間の確保だけは心配なのですが、朝から元気一杯です。



あらじんとゆかいな仲間たちが準備してくださる朝食を平らげ、女子連中は子どもジャンルにあるプールへ飛び込みます。もう、大騒ぎ。男子連中はサッカーやトランプに興じながら、「女子がプールに居るから入りたくても入れない」などと、恨めしそうにプールを切望していました。

昼食は流しそうめん。大量のそうめん、ラーメンをゆかいな仲間たちが準備して下さり、子どもジャンルの子ども達や保護者も合流して行いました。

麺だけでなく、時にはトマトやフルーツにアイスクリーム、飴や野菜も流れる流しそうめん。時にはキーホルダーまで!? いたずら心満載の流しそうめん大会で大盛り上がりでした。



お腹一杯になったところでぶどう狩りに出発です。子どもジャングルから徒歩で5分とかからない場所にあります。JA春江の方々の手間暇と農園社長の方の森藤さんのご好意で実現しました。ここのぶどうの美味しいこと！大量のぶどうを準備して頂いていたのですが、殆んど完食。社長の森藤さんも「これだけ喜んでくれたら満足！」とおっしゃって頂きました。ぶどうだけでなくブルーベリーもご提供いただき、手土産に持って帰ることも出来ました。子ども達も大満足の様子。ありがとうございました。

子どもジャングルに戻ると、またプールに入る子、サッカーを始める子、パパジャングルメンバー土田さんが持ってきてくれたシャボン玉に興じる子、夕食の準備ができるまで、思い思いの時間を過ごしました。サッカーでは、南相馬の子ども達と子どもジャングルに通う春江の子ども達が一緒にボールを追う姿が見られました。眺めているだけで、心地よい気持ちにさせてもらえる時間となりました。



汗をたくさんかいて、夕食でお腹が膨れた次はお風呂です。あわら温泉「長谷川」さんのご厚意で温泉浴です。風呂上りにジュース、アイスまでご提供いただきました。更には、翌日も同じようにお世話になりました。ありがとうございました。



後は就寝。しかしながらいつもの事、枕投げに始まり寝ません。このころから、子ども達が「背中が痛くて寝られない」と訴えてきます。「日焼け」です。ほとんどの子が「真っ赤」です。春江の子は「黒い」です。この違いに、外遊びの機会が奪われている現状を再確認させられました。明日も天気は晴天。外で遊ぼう！早く寝よう！しかし、朝方まで起きていました。

<4日目> 8月7日(日) 魚のつかみ取り・かかし祭り

この日は午前中、子どもジャングルのプールに魚を放してつかみ取りを行う予定をしていました。そのために、昨日の晩、あらいんが勝山市にある「あまごの宿」からあまごを100匹仕入れてきました。しかし、あまごは敏感で繊細な魚。水温が少し上昇するだけで死んでしまいます。朝の時点で半分の魚しか残っていませんでした。急ぎで予定を変更し、AM8:00前に実施しました。

残っていた魚は思ったより元気でした。しかし、子ども達はそれ以上に元気。あまごも観念したかのように、全て捕まってしまうました。親の敵のようにして捕まえて離さなかった魚を、今度は昼食で炭火焼にして焼いて食べます。この頃には子どもジャングルの子ども達も合流し、共に魚をほおばりました。子どもジャングルの保護者の方々も、炭火焼にご協力いただきながら魚を堪能していました。ご協力、ありがとうございます。味は抜群でした。何と言っても「あ

まご」です。子ども達は赤い斑点が気になるらしく、「これ何？病気？」などといぶかしげに覗きながら、何匹も食していました。



その後は近くの公園「エンゼルランド」まで足を伸ばし、外遊びを子どもジャングルの子ども達と一緒に堪能しました。夕方頃には魚つかみ用のプールが泳げるように整ったので、女子連中が遊泳したりもしていました。男子は「また女子に先を越された！」と悔しがっていましたが...



夕方には、春江坂井ライオンズクラブさんのご厚意で地域の祭り、坂井町かかし祭りに出発です。ここで夕食も頂き、更には、無料券まで頂き、祭りの出店でカキ氷等を子ども達は買いながら、雰囲気を楽しんでいました。途中、祭り会場の中央ステージへ子ども達が上がり、多くの聴衆から拍手喝采を貰う場面まで準備して下さりました。ありがとうございました。

祭りを堪能した後、昨日の芦原温泉「長谷川」で入浴を済ませ、子どもジャングルへと戻りました。もはや就寝時間はあつてないようなもの。けれど、この頃から宿直担当のあらじん始めその他のスタッフに、夜な夜な身の上話や相談事を持ちかける事が増えてきました。内容は秘密。夜という環境と仲間意識が芽生えたのと、遠くはなれた環境がそうさせるのでしょうか？いずれにしてもこの夜の時間は小悪!?を共有する貴重な時間ともなりました。

<5日目> 8月8日(月) 池田町でアドベンチャーボート・川遊び・

自然の家宿泊・キャンプファイヤー

今日は子どもジャングルを離れて、奥越高原青少年自然の家での宿泊となります。朝食を取った後、直ぐにバスに乗込んで出発です。最初の行き先は池田町、90分ほどの道中となります。この二日間はお手伝いも兼ねて運転手はボランティアさんが担ってくれました。ありがとうございました。池田町での目的はアドベンチャーボート・川下りです。子ども達も楽しみにして

いた企画です。アドベンチャーボートのあるモクモクハウスさんには大変お世話になりました。また、この日はたくさんのボランティアさんに来ていただきました。また、越前町のMAREさんなどのご協力を得て、ケガもなく全員が挑戦することが出来ました。晴天続きの猛暑だった為、水量が少なくコースが半分に短縮されていたのは残念でしたが、それでもスリルあり、笑いあり、どの子も満面の笑顔！笑顔！子ども達は十分、川遊び、河下りを堪能しました。



3時間ほどで全員が終了し、昼食となりました。ここでも、県民生協さんがお弁当を配達してくれました。ありがとうございます。次の場所、かずら橋へ移動する前に、MALEさんの友人の方が子ども達におやつを差し入れして頂きました。ありがとうございました。



全長44メートル・高さ12メートルのかずら橋は木製の吊り橋で、下に川が流れているのが踏み板の隙間から垣間見えます。大人でも怖く感じます。怖いもの知らずで、走って何度も往復する子、その間、半分も進めない子、怖さに負けて途中で引き返す子、様々です。ちょっとしたスリルを味わった後、宿泊先の大野市青少年自然の家に着。バスを出て、宿舎へ歩いて移動する間、雷と共に雨が降り始めました。

キャンプファイヤーが出来るかどうか心配になりましたが、雨が降ったのは期間中、後にも先にもこの一時だけ。後は全て晴天の下、行くことが出来ました。宿舎の食事セルフサービスですがたっぷりあり、施設のご厚意で、南相馬の子ども達用のデザートまで特別に準備して下さいました。教育機関の施設なのにご配慮頂きありがとうございました。



暗くなって、いよいよキャンプファイヤー！キャンプファイヤーの企画、進行のためにパパジャングルメンバー林さんが駆け付けてくれました。おかげで楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

遅いお風呂を済ませて、後は寝るだけ。
部屋割りは一応割り当てたのですが、皆一部屋
に集まって騒いでいます。
男子は子どもジャングルの子ども達が南相馬の
子達と一緒に寝たいと場所の取り合い。
春江の子ども達との交流がしっかりと結ばれていく
過程を体現してくれている所を見せてくれました。



「お化けを見た!」「霊を写真に取った!」「あ
らじんにマニキュアした!」などなど、場所
が変わってもいつも通り、全く寝る素振り
がありません。お別れの日が近づいている...。
そんな気配も少しずつ、子ども達の脳裏に浮
かんでいるのかもしれませんが。あらじんはこ
の頃から、事ある毎に涙を浮かべていました。

<6日目> 8月9日(火) 県立恐竜博物館・化石発掘体験・

お別れパーティ

早い朝食を終えて、全国的にも注目されている!?福井県立恐竜博物館へ移動です。宿からバスで40分ほどの勝山市にあります。博物館に入場する前に同じ敷地内にある勝山恐竜の森で化石発掘体験です。トンカチ片手に発掘が始まりました。石を割っても「どれが化石?」という状態でしたが、徐々に「植物の化石!」「葉っぱの化石!」などの声が聞こえてきました。数ではなくこぶし大の量なら持ち帰ってもいいとの事で、大きな石を準備する子や、小さな化石をたくさん発掘し、「家族みんなにプレゼントする!おじいちゃん、おばあちゃんの方も!」なんて言いながらみんな必死に発掘していました。



次は博物館内入場です。丁度「世界最大のティラノサウルス、実物の頭の化石」も特別展として展示されている期間でした。ここも含め全てご厚意で入場が許可されました。ありがとうございました。子ども達は女の子も男の子も満足だった様です。

館内の特別ルームで生協さんが配達してくれたお弁当を食べてお土産タイムを済ませた後、春江町の子どももジャングルへ出発。

15:00頃到着。荷物整理をほどほどに、サッカーを始める子、プールへ入る子、様々です。相変わらず子ども達は元気です。少し様子が違うのは子どもジャングルの子ども達と思いきいに住所交換を始めました。微笑ましくもあり、さびしくもあり、そんな光景でした。

いちい荘さんでお風呂をお借りしました。職員の方全員が出迎えてくれて、全員がお見送りをして頂きました。ありがとうございました。入浴後はサーティーワンさんからのアイスクリームも頂きました。ご馳走様でした。

18:30から、中公民館でお別れパーティです。

パーティの料理はもちろん、期間中裏方を全て引受けてくれた「あらじんとゆかいな仲間たち」の面々、子どもジャングルの子ども達とその保護者の皆様ら多くの方々が集まりました。もちろん主役は南相馬の子ども達。子ども達の為に県内では有名な音楽グループビオリアンサンプル華弓さんと、その教え子でもある小学生を中心とした子ども達が演奏、歌を披露してくれました。宮永さまご夫妻が歌を披露してくれました。あらじんとゆかいな仲間たちがパフォーマンスを披露してくれました。皆様ありがとうございました。それをながめながら、一番テンションが高かったのはあらじんでした。目に涙を浮かべながら...

会の最後に南相馬の子ども達がステージに上がり、福井での思い出、今後の抱負を1人ずつ披露してくれました。最初は恥ずかしかったのか、照れておふざけしか語れなかったのですが、あらじんの渇!?でしっかりと語ってくれました。それを聴きながら、また、あらじんは涙...

最後の最後に常駐スタッフの言葉があり、大トリはあらじん。あらじんが語りだすときには、南相馬の子ども達は大号泣。子どもジャングルの子ども達も保護者も参加者も大号泣。それを見たあらじんも言葉にならず大号泣！涙の感動的なお別れパーティとなりました。皆様、ありがとうございました。



余韻を引きずりながら子どもジャングルへ戻る...と思ったら!?!、帰ると直ぐ、いつものように枕投げが始まりました。ただ、いつも以上に荒々しく激しい枕投げが延々と続きました。何かの意味を含んだ枕投げのようでした。この日の宿直はあらじん。朝まで語り明かしたのは間違いない...と!?! 思われます...

<7日目> 8月10日(水) 南相馬市へ出発

結局、トータルの睡眠時間はどれほどだったのか...。それでも元気一杯の子ども達に私達が元気を貰いながらのあつという間の期間が最終日となってしまいました。

あらじんとゆかいな仲間たちが振舞ってくれた、最後の手料理朝食を平らげ、南相馬へ向かっての出発の時間です。この期間中、子ども達の様子を毎日毎日カメラに収め続けてくれたフォトグレッシブさんも、お別れの場面のシャッターチャンスを狙っています。毎日毎日、お疲れ様でした。素敵な記念アルバム？写真集？今回の旅の思い出を一人一冊個人の写真を集めたフォトブックを作ってくださいました。ありがとうございました。あらじんとゆかいな仲間たちの面々や子どもジャングルの子ども達、保護者の皆様に見送られ、春江町江留中、子どもジャングルをAM8：15頃後にしました。

またまた長い長い道のりです。元気一杯、笑顔で力一杯手を振っての出発でした。手には福井に来た時の倍ぐらいの荷物を持っていました。お土産はもちろん、五月ヶ瀬さんや村中甘泉堂さんの手土産の提供もあり、抱えきれないほどのお土産を持っていました。それ以上に、こころいっぱい深い深い福井の皆様の熱く優しい思いを持ち帰ってくれている...。そう信じられる素敵な子ども達との出会いでした。

道中はDVDを見たり他愛も無い話をしたり…。来る時と変わりはなかったのですが、「冬も福井へこれるの!?!」との子ども達の声が響き渡っていました。

「考えておくわ」

「考えなくていいから、冬もやって!」

最も嬉しい反応を示してくれていました。感謝、感謝です。

18：00、南相馬鹿島体育館前に到着です。その前に国道沿いで迎えに行く時に見た、陸に打ち上げ流された無数の船の光景が目に入ってきました。このとき子どもが「おじいちゃんの船!」と叫びながらバスの中から指差しました。現実に戻された瞬間です。私達に何が出来るのか？何が出来たのか？これから福島で生活していく子ども達の行く末に思いを馳せるしかありません。

お忙しい中、到着場所に保護者の皆様が出迎えて下さいました。私達を信じて福井に長期預けて下さりありがとうございました。解散式で保護者を代表してお父さんが挨拶をして下さりました。様々な思いを抱えた語り部、心を熱くしました。

解散後も、保護者の方々に代わり代わりご挨拶を頂きました。「ありがとうございました」と。ただ、こちらは言葉にならず、私達からも「ありがとうございました」としか語る事が出来ませんでした。私達にもたらした物の方が、大きかったのかもしれない。

怪我もなく、全員無事に元気に親元へ送り届ける事ができました
皆様、本当にありがとうございました。

<最後に...>

NPO法人パパジャングル、荒巻仁が発した言葉から始まった企画が、ここまで大きな事業となり成功をさせる事ができました。私達の自己採点 120 点です。自己満足の採点ですが、参加者達の反応、お力添えを頂いた皆様の想い、募金という形でお心を託して頂いた皆様のお気持ち、全てのご協力があったの事業でした。本当に、本当にありがとうございました。

南相馬の子ども達、保護者の皆様の本当の想いはいかなるものか、正確には測りかねます。しかし、これだけの事業を皆様と共に成しえた事がまずは本当に嬉しく思います。子ども達は、これからの生活を見守っていく事で、本当の意味での成果を見届けられるものと思います。今後も、見守り続けていきたいと思っています。幸い、子ども達から手紙やメールも頻繁に届いています。保護者からも連絡を頂いています。春江の子ども達との間でも、文通が始まっています。南相馬の子ども達だけではなく、福井の子ども達にも、多大な影響を与えていると思っています。子ども達同士の関係作りの一翼も担えたのではないかと、こちらも皆様に感謝申し上げます。

外で遊べない、当たり前なのが当たり前出来ない子ども達に、ひと時でも「当たり前なのが当たり前出来る環境を提供したい」その想いだけでスタートしたこの事業。大きな成果と課題、両方を得た事業となったと思います。

感謝し切れないほどの気持ちを込めての報告書とさせていただきます。尚、報告書で紹介し切れなかった熱いご協力者の皆様方もたくさんいらっしゃいます。不手際もあったかと思いません。失礼をお許し下さい。

最後に、この事業を「南相馬こどものつばさ」という大きな事業にまで発展させていただいた現地のスタッフの皆様。それを裏方で実現させたファザーリングジャパンの皆様。

また新聞などで情報をキャッチし、わざわざ募金を持参いただいた個人の皆様。

関わっていただいた全ての皆様に感謝です。

ありがとうございました。

冬もやります。よろしかったらご協力のほど、よろしく願いいたします。

たくさんのご支援、ご協力、重ねてお礼申し上げます。

特定非営利活動法人パパジャングル

919-0412 福井県坂井市春江町江留中 18-1-5

info@papajungle.jp

代表 荒巻 仁 090-2017-7267